

にいがた・北から南から



大江山の健康朝市

またひとつ財産を残して

「ここに生まれ住んでよかったと

いう地域をみんなで」

— 第四回大江山子育て・教育研究集会の報告 —

高橋武昌

標題の子育て・教育研究集会を、去る
一月九日（日）終えました。

農業の玄人が農業の素人に、教育の玄
人が教育の素人に……と、心から楽しく
学ぶ集会であったように思えます。きち
んとしたまとめをする前に、まず寸景を
描きます。

子どもは、こんなところで

つまずいています

基調報告では、子どもの問題を次の五
点で述べています。

① 指示待ち人間が増えている——大江山
の地域で子ども・青年は、生産（農業）
をどうみているか。

② 弱者排除の状況——農業つぶしと受験
体制の実情。

③ 飽食の中の食しい「食」——子ども・
青年に現れた「食」の荒廃（例Ⅱ「食
事は楽しいか」の問いに「はい」75%

「いいえ」25% 以上中学生)。

④父親はどうなった——労働強化と新しい家庭像(例Ⅱやさしい父、せめて日曜日は自分の子への奉仕で。新しいマイホーム主義)

⑤勉強って何だろう——新指導要領の危険性(例Ⅱ「日の丸」「君が代」の指導強化。生産部門より第三次部門の重視。

こうした状況のなかで、子ども・青年に生産の現実を見つめさせ、人間交流を深めよう、そのなかで教育・文化を花開かせよう、すべての地域の人々によびかけ、お互いの考えの違いを認め合って、地域・子どもを大切にしていこう思想をきたえ合い一人ひとりのものにしていく……と参加者によびかけました。

生産とくらしと教育の見える実践報告

当日、全体会で報告されたレポートは次の四本でした。

①中学生の労働体験学習

大江山中学校が毎年実施している労働体験、ことは全校生徒が四日間以上の体験に挑戦したといえます。報告をした大江山中学校一年生佐藤晴美さんは、近くの乳牛を飼っている家へ、友達と二人で。

「汚い、くさい」と言わない約束を二人でして牛の世話をしました。牛のお産に直面します。二頭の子牛が生まれる感動的な場面を、生き生きと報告しました。

②子育て・仕事・家事に

大奮闘のお母さん

一年前に地域の団地に転居してきた、若い垣内とよさんの報告です。

大江山に来て、松葉保育園への行き帰りを子どもといっしょに歩くのが大好きだといえます。春の草々を子どもと手にするよるこび、夏は虫を捕ったり、せみの

の声に聞き入る楽しみ、秋には落ち葉をふみしめて歩くこちよさを、素直に語ってくれました。

今、自分の子どもが小学校にいよいよ入学するので、丸山小学校地区に学童保育所をつくる運動を、地域の人々の支えの中で始めています。

③寝に帰ってくるお父さんの

地域での楽しみは

北山集落で「さいの神」を復活・継承している責任者の一人、清野諄さんの報告。

会社が土曜休日になったのはいが、平日の残業がたいへん。「さいの神」のまつりのための相談、わら集め、交流がたまらなく楽しいと語っています。日曜日の活動は半日で終わるよう努力しているとのこと。多くの父親たちが結果集めています。

④朝市は、こんなに楽しく

始まった

「大江山あすの農業とくらしをつくる会」の代表、稲田吉男さんの報告。

農民が初めて共同して、農協の倉庫前で毎日曜日、朝市を始めました。四〇〇人も人が来てくれることもあります。

自分が生産した農産物に値をつけ、相手との関係で売ることができると、さらに自分の作ったものに反応が返ってきます。

なす漬けをつくり売っているある農民は夢をみたそうです。「自分のつくったなす漬けを買ってくれた消費者の方が、なす漬けを食べて苦しみ出し、夜中にうなされて目が覚めた」と。

今、農民と消費者、農民と農民、地域住民同士の人間関係が、新しい姿で始まっています。

三つの分散会で、四本の実践報告をもとに話し合いがすすめられました

わらをもっと子どもたちのために使えないか／松葉保育園、たんぼ保育園、大江山保育園では、子どもたちの全面発達を努力している／民間会社の利潤追求合理化の中で喘ぐ労働者の様子、農民の見通しを持った歩みの姿は、対比されていてわかりやすい／手抜き農業もあるが、それは作物に現れる。同様に子育ての手抜きに悩んでいる／地域の生産・くらしの激しい変化は、子どもにさまざまな影響を与えている／中学校の労働体験学習に協力している……etc。

私たちは一人では生きていけないんだということが、実感として伝わってきました。

村山隆氏の講演「地域づくりと教育」に感動、そこから多くの示唆を！

京都・北桑田高校の教師であった村山先生は、矛盾こそ最大の発達の要件であると、人がいるところに運動が生まれると。

高校生とのとり組みを通して、七〇〇年もの伝統ある「大内かぶら」を再発見。そのなかで生徒は、学ぶということの意味を捉え直し、村づくりに加わり始めます。

（たかはし たけまさ）新潟市南野小学校

